

介護職員初任者研修シラバス・科目別特徴

だんだん介護職員初任者研修講座

わかりやすい講義や映像・補助教材を活用することで、未経験の方でもでも理解しやすい内容となっており、就業後の業務がスムーズに取り組むことができる研修を特色としています。

| 1 職務の理解(6 時間) | | | |
|-------------------|-----------|-----------|---|
| 項目名 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①多様なサービス理解 | 3時間 | 0 | 《講義内容》 国の施策の動向と、介護・介護保険制度の意義を理解し、介護職のあるべきイメージを理解するとともに、科目構成と科目の相互の関連性等全体像を理解する |
| ②介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3時間 | 0 | 《講義内容》 多様なサービスと介護職の仕事内容・働く現場の理解するとともに、介護職の資格体系を見直しキャリアパスを学ぶ。 |
| 合 計 | 6時間 | 0時間 | |

| 2 介護における尊厳の保持・自立支援(9 時間) | | | |
|--------------------------|-----------|------------|--|
| 項目名 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①人権と尊厳を支える介護 | 45分 | 4時間 30分 | 《講義内容》 介護職の基本理念である「基本的人権」及び「個人の尊厳」を理解する。アドボカシー・エンパワメント及び介護におけるICF、ノーマライゼーションの理念等理解を深める。 《演習内容》グループ討議（課題：人権と尊厳） |
| ②自立に向けた支援 | 45分 | 3時間 | 《講義内容》 専門職として求められる「自立」と「自律」の理解。自立支援のための介護方法および介護予防の意義と方法を学ぶ。 《演習内容》グループ討議（課題：自立と自立支援） |
| 合計 | 1時間30分 | 7時間30分 | |

| 3 介護の基本(6時間) | | | |
|------------------------|-------|-------|---|
| 項目名 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 45分 | 45分 | 《講義内容》 介護職に求められる専門性を理解し、利用者主体の支援、根拠ある介護等基本的な知識を学ぶ。異なる専門性を持つ専門職種と、多職種によるチームケアにおける機能と役割を理解する |
| ②介護職の職業倫理 | 45分 | 45分 | 《講義内容》 法令遵守、利用者の尊厳と自己決定、及び日本介護福祉士の倫理綱領等から介護の専門職としての社会的責任と姿勢を理解する。 |
| ③介護における安全の確保とリスクマネジメント | 45分 | 45分 | 《講義内容》 介護における安全確保の重要性と、リスクマネジメントを理解する。危険予知と事故予防、事故発生時の緊急対応を具体的事例から学ぶ。 |
| ④介護職の安全 | 45分 | 45分 | 《講義内容》 介護職の健康管理の重要性を理解し、介護職に起こりやすい健康障害、腰痛、感染症の予防等を学ぶ。 |
| 合計 | 3時間 | 3時間 | |

| 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間) | | | |
|----------------------------|-------|------------|---|
| 項目名 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①介護保険制度 | 30分 | 2時間 30分 | 《講義内容》 わが国の社会的背景を理解し、介護保険制度の意義、成立と導入後の動向を学ぶ。また、制度の基本的仕組み、サービスの種類、利用の流れ、年金制度等を学ぶ。 |
| ②医療と連携とリハビリテーション | 30分 | 2時間 30分 | 《講義内容》 服薬、健康チェック、ストーマ、経管栄養等の高齢者医療及び、リハビリテーションの意義、種類、経過等を理解する。 |
| ③障害者自立支援制度及びその他の制度 | 30分 | 2時間 30分 | 《講義内容》 障害者福祉の背景と動向を学び、制度の理念・概要と目 |

| | | | |
|----|--------|--------|--|
| | | | 的を理解する。また、消費者基本法・成年後見制度等個人の権利を守る制度の概要や目的も学ぶ。 |
| 合計 | 1時間30分 | 7時間30分 | |

| 5 介護におけるコミュニケーション技術(6時間) | | | |
|--------------------------|------------|------------|---|
| 項目名 | 通学間数時 | 通信時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①介護におけるコミュニケーション | 1時間 30分 | 1時間 30分 | 《講義内容》 コミュニケーションの意義と目的、利用者・家族への対応、状況・状態に応じた手法を学ぶ。 《演習内容》ロールプレイ（言語・非言語コミュニケーション） |
| ②介護におけるチームワークのコミュニケーション | 1時間 30分 | 1時間 30分 | 《講義内容》 チームにおける報告・連絡・相談、記録による情報の共有化を理解する。 《演習内容》グループワーク（課題：報告、記録の書き方等） |
| 合計 | 3時間 | 3時間 | |

| 6 老化の理解(6時間) | | | |
|-----------------------|------------|------------|---|
| 項目名 | 通学間数時 | 通信時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①老化に伴うところとからだの変化と日常生活 | 1時間 30分 | 1時間 30分 | 《講義内容》 老年期の発達と心身の変化の特徴と心身機能の変化と日常生活への影響を理解する。 《演習内容》グループワーク（老化につて） |
| ②高齢者と健康 | 1時間 30分 | 1時間 30分 | 《講義内容》 老年症候群と生活上の留意点、及び高齢者に多い病気と生活上の留意点を学ぶ。 《演習内容》グループワーク（課題：高齢者の疾病と対応） |
| 合計 | 3時間 | 3時間 | |

| 7 認知症の理解(6時間) | | | |
|------------------------|-----------|-----------|---|
| 項目名 | 通学間 数時 | 通信時 間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①認知症を取り巻く状況 | 45分 | 45分 | 《講義内容》 認知症ケアの理念を理解し、認知症の人に生じやすい身体的不調と健康管理を学ぶ。 |
| ②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 45分 | 45分 | 《講義内容》 認知症の概念と原因疾患・病態を理解する。 |
| ③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 | 45分 | 45分 | 《講義内容》 認知症の人に起こりやすい生活障害、心理・行動の特徴を理解し、利用者への対応を学ぶ。 |
| ④家族への支援 | 45分 | 45分 | 《講義内容》 認知症の受容過程の援助と、介護負担の軽減を理解し、家族との関わり方を学ぶ。 |
| 合計 | 3時間 | 3時間 | |

| 8 障害の理解(3時間) | | | |
|--------------------------------------|-----------|-----------|--|
| 項目名 | 通学間 数時 | 通信時 間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①障害の基礎的理解 | 30分 | 30分 | 《講義内容》 障害者福祉の基本理念、国際生活機能分類を理解し、正しい障害の認識や知識を修得する。 |
| ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識 | 30分 | 30分 | 《講義内容》 身体障害・知的障害・発達障害・内部障害等の障害をそれぞれ医学的側面から学び、障害と障害者を理解し支援方法を学ぶ。 |
| ③家族の心理、かかわり支援の理解 | 30分 | 30分 | 《講義内容》 障害者や高齢者を介護する家族の肉体的・精神的負担を理解し、家族への関わり支援を学ぶ。 |
| 合計 | 1時間30分 | 1時間30分 | |

| 9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間) | | | | |
|-----------------------------|---------------------------------|-----------|-----------|---|
| 項目名 | | 通学間 数時 | 通信時 間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| 基本 知識 の 学 習 | ①介護の基本的な考え方 | 3時間 | 1時間 | 《講義内容》 理論に基づいた介護、法的根拠に基づいた介護を理解する。 |
| | ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 3時間 | 1時間 | 《講義内容》 自己概念と生きがいを理解する。 |
| | ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 3時間 | 1時間 | 《講義内容》 健康チェック・バイタルサインのとり方、また、骨・関節・筋肉、自律神経と内部機関に関する基礎を理解する。 |
| | ④生活と家事 | 5時間 | 1時間 | 《講義内容》 生活の捉え方、衣食住の環境整備等、生活と家事について理解する。 《演習内容》グループワーク（衣食住の環境） |
| | ⑤快適な住環境整備と介護 | 5時間 | 1時間 | 《講義内容》 「人と住まい」を理解し、高齢者・障害者にとっての住まいの性能について学び、介護保険による住宅改修及び福祉用具を学ぶ。 《演習内容》グループワーク（高齢者・障害者とバリアフリー） |
| | ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 5時間 | 1時間 | 《講義内容》 整容の生理学的・社会的・精神的意義を理解し、具体的な整容行動と支援方法を学ぶ。 《演習内容》実技（衣服の着脱・整髪等身だしなみ） |
| | ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 5時間 | 1時間 | 《講義内容》 移動・移乗介助の意義と目的、福祉器具と利用方法、残存機能の活用と自立支援、利用者と介護者の安全・安楽な介助方法を学ぶ。 《演習内容》実技（車イス等福祉用具を用いた移動・移乗） |
| | ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 5時間 | 1時間 | 《講義内容》 食事の意味・接種の仕組みと加齢や障害に伴う様々な症状、用具・自助具の活用法、口腔ケアを理解し、楽しい食事の支援方法を学ぶ。 |

| | | | | |
|----------------------------------|------|------|--|--------------------------|
| | | | | 《演習内容》実技（食事の介助、福祉用具の使い方） |
| ⑨入浴、清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護 | 5時間 | 1時間 | 《講義内容》 入浴と清潔保持に関する基礎知識を学び、安心・安全な入浴介護・清拭介護を学ぶ。 《演習内容》実技（入浴と清拭など） | |
| ⑩排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護 | 5時間 | 1時間 | 《講義内容》 排泄の意義・メカニズム・排泄障害・失禁を理解し、排泄環境の整備・用具の活用方法と支援方法を学ぶ。 《演習内容》実技（福祉用具使用及びベッド上の排泄介助） | |
| ⑪睡眠に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護 | 5時間 | 1時間 | 《講義内容》 睡眠に関する基礎的知識を理解し、環境整備と用具活用等による質の高い睡眠の支援方法を学ぶ。 《演習内容》グループワーク（課題：安眠のための介護） | |
| ⑫死にゆく人に関連したところからだのしくみと終末介護 | 5時間 | 1時間 | 《講義内容》 終末期の身体的状況・心理状態を理解し、緩和ケアと多職種との連携、家族への支援方法を学ぶ。 《演習内容》グループ討議（課題：終末期ケア） | |
| ⑬介護課程の基礎的理解 | 6時間 | 0時間 | 《講義内容》 科学的思考と介護過程を理解し、介護過程の展開に必要な構成要素を理解する。 《演習内容》グループワーク（課題：介護過程の確認） | |
| ⑭総合生活支援技術演習 | 6時間 | 0時間 | 《講義内容》 複数の事例において、一連の支援を学ぶ。支援の際の視点、アセスメント、自立に向けた介護課程の展開方法を理解する。 《演習内容》実技（事例別支援方法・総復習・習得状況の確認） | |
| 合計 | 66時間 | 12時間 | | |

| | | | |
|--------------|-------|-------|------------------------------------|
| 10 振り返り(4時間) | | | |
| 項目名 | 通学間数時 | 通信時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①振り返り | 3時間 | 0時間 | 《講義内容》 研修全体を振り返り、学習したことと継続的に学習す |

| | | | |
|-------------------------|--------|--------|--|
| | | | べき事柄の確認。 《演習内容》グループ討議 |
| ②就業への備えと研修修了後における継続的な研修 | 1時間 | 0時間 | 《講義内容》 施設・事業所等現場における継続的学習等についての確認。キャリアパスやOJT等の理解を深める。 |
| 合計 | 4時間 | 0時間 | |
| 全カリキュラム合計時間 | 92.5時間 | 40.5時間 | |

| 修了評価(1時間) | | | |
|-----------|--------|-------|---|
| 項目名 | 通学間数時間 | 通信時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| | 1時間 | 0時間 | <p>《出題範囲》 科目(1)職務の理解から科目(9)ところとからだのしくみと生活支援技術</p> <p>《出題形式》 正誤選択形式・語句選択形式等</p> <p>《出題数》50問</p> <p>《合否判定基準》 100点を満点としてA(90点以上)、B(89~80点)、C(79~70点)、D(70点未満)の区分で評価する。C評価以上を合格とし、D評価は不合格とする。</p> <p>《不合格者について》 D評価を得た者は、補講、再評価を実施する。 補講費用：3,000円 評価費用：2,000円</p> |